

「市公有林の主伐、再造林の積極的実施について」
いずもの森ブルースカイ・グリーン計画 ～主伐の応援団からプレイヤーに～



主伐



再造林



利用間伐

【市公有林の現況】

- 面積
3,776ha(9齢級以上 : 2,992ha)
- 主伐実績
なし
- 再造林実績
令和元、2年度
市有林松枯れ跡地で実施
面積: 1.7ha
令和4年度～
県行造林主伐地で継続実施中
面積: 約10ha見込



出雲市の人工林は1万3千haあり、この内、植林から40年以上が経過し、木材として利用可能な人工林は約8割を占めており、市公有林についても同様に、多くの人工林が主伐及び利用間伐による利用期が到来しています。

一方で、樹齢が古いことから二酸化炭素吸収力が減衰している森林や樹冠長率の低下による倒木、根がえりのおそれのある危険な森林も多くあります。また、「花粉症に関する関係閣僚会議」においては、発生源対策として令和15年度までにスギ人工林を約2割減少させる目標を掲げ、伐採、植替えを促進する方針を打ち出しており、今般、公有林スギ人工林伐採への森林環境譲与税使用が認められたところです。

以上のことから、これまでの主伐の主目的であった木材生産収益に拘らず、公益的機能発揮による環境保全、林業担い手育成、風水害発生防止、花粉対策等を目的とした、市公有林の伐採、再造林に取組み、循環型林業を実践していきます。さらに、市公有林と隣接する私有林を取り込んだ森林の団地化、集約施業を進め、民有林全体の主伐、再造林を推進していきます。二酸化炭素吸収量の増加や森林風水害の発生防止等を目的とした伐採は、収益が見込めないことから、再造林にあたっては、省力、低コスト造林による歳出減を図り、歳入においては、主伐再造林の一貫作業による有利な補助金の確保や森林環境譲与税の活用、森林管理J-クレジット制度の導入による新たな財源も確保しながら進めていきます。

なお、令和4年度から実施している航空レーザ計測、森林資源解析により、市公有林についての単木情報把握をはじめ、施業計画立案、森林境界明確化、収穫調査、収支試算等が正確かつ容易に行えるようになったことから、主伐、再造林の積極的な取組みを始める好機であります。



【※樹冠長率】



① 木材生産

立木売払方式を優先採用した収穫を行い、収益を得る。

② 二酸化炭素吸収量の増加

樹齢が古く、二酸化炭素吸収力が減衰している森林については、伐採、再造林や間伐により二酸化炭素吸収力の回復、増加を図る。

③ 森林風水害の発生防止

樹冠長率が低下し、暴風、大雨により倒木、根がえりが発生するおそれのある危険な森林は伐採、再造林し、災害の発生防止を図る。

④ 花粉対策

花粉症の発生源対策として、スギ人工林を伐採と花粉の少ない苗木や広葉樹等への植替えを行い、花粉発生量の減を図る。

⑤ 林業担い手の確保、育成

林業事業者の森林施業事業量の大幅増と、樹木採取権制度の導入による事業量の平準、安定化により、雇用、機械導入の進展、林業収入増を図る。

⑥ 民有林全体の主伐、再造林の推進

市公有林と隣接する私有林による森林の団地化、集約的施業を進めるため、森林経営管理制度、市有林貸付制度・林産物採取制度、市有林への分収林設定に係る制度を運用しながら、民有林全体の森林施業事業量、原木生産量の増加を図る。

⑦ 特用林産物の推進

間伐を実施する市有林においては、サカキ等の特用林産物の栽培を検討し、新たな収益の確保を目指す。

いずもの森 ブルースカイ・グリーン計画



● 木材生産、環境保全、施業フィールドの拡大確保、林業担い手育成、風水害発生防止等を目的とした、市公有林の主伐再造林を計画的かつ積極的に取り組み、循環型林業を推進。

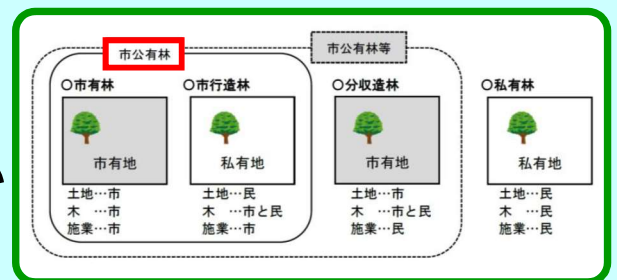
- ゾーニング計画
- 森林経営計画
- 主伐再造林施業実施年度計画

1. 計画対象森林

市公有林・・・「市有林」と「市行造林」

● 「市有林」: 森林経営計画を樹立している市有林

● 「市行造林」: 森林経営計画を樹立している市行造林(土地は私有地、樹木は市と第三者との共有)



2. 計画目標値

出雲市環境総合計画の「森林整備による二酸化炭素吸収源の確保」にある森林整備によるCO2吸収量の目標値156千t-CO2/年を維持するために必要となる森林整備面積の増加分を主伐再造林の目標値とする。

● 年間主伐再造林面積: 20ha以上

ぜんぱつ
「漸伐」

【木材生産】

主伐又は利用間伐の総事業費、木材売上等を試算すると収益が見込める市公有林

⇒①木材生産・②二酸化炭素吸収量増加・⑤林業担い手の確保、育成・⑥民有林全体の主伐、再造林の推進・(④花粉対策)

【ゼロカーボン】

二酸化炭素吸収量増加及び花粉対策を図るため、伐採、樹種転換による再造林を進める市公有林

⇒②二酸化炭素吸収量の増加・④花粉対策・⑤林業担い手の確保、育成

【保育】

主伐時期尚早等により間伐による保育が必要となる市公有林

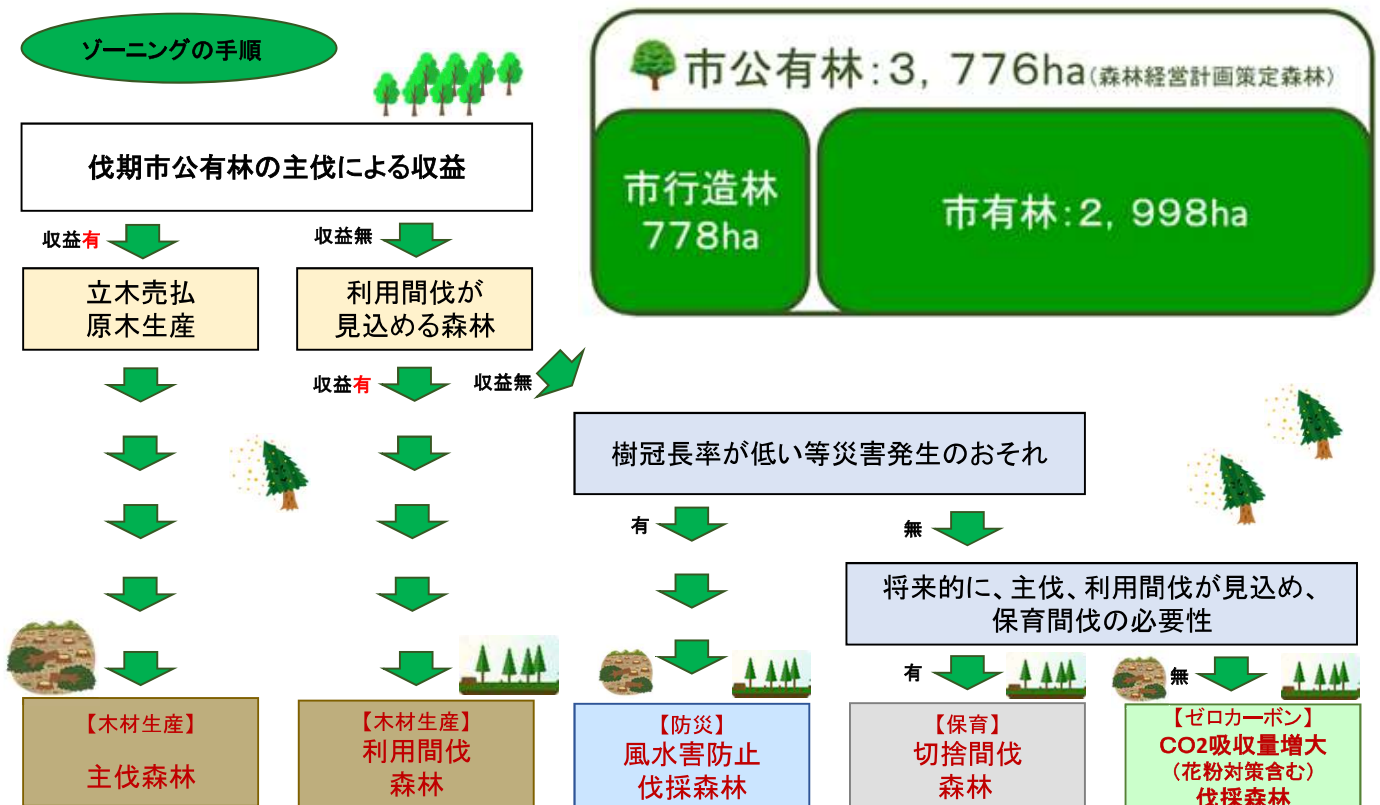
⇒②二酸化炭素吸収量の増加・⑤林業担い手の確保、育成⑦特用林産推進

【防災】

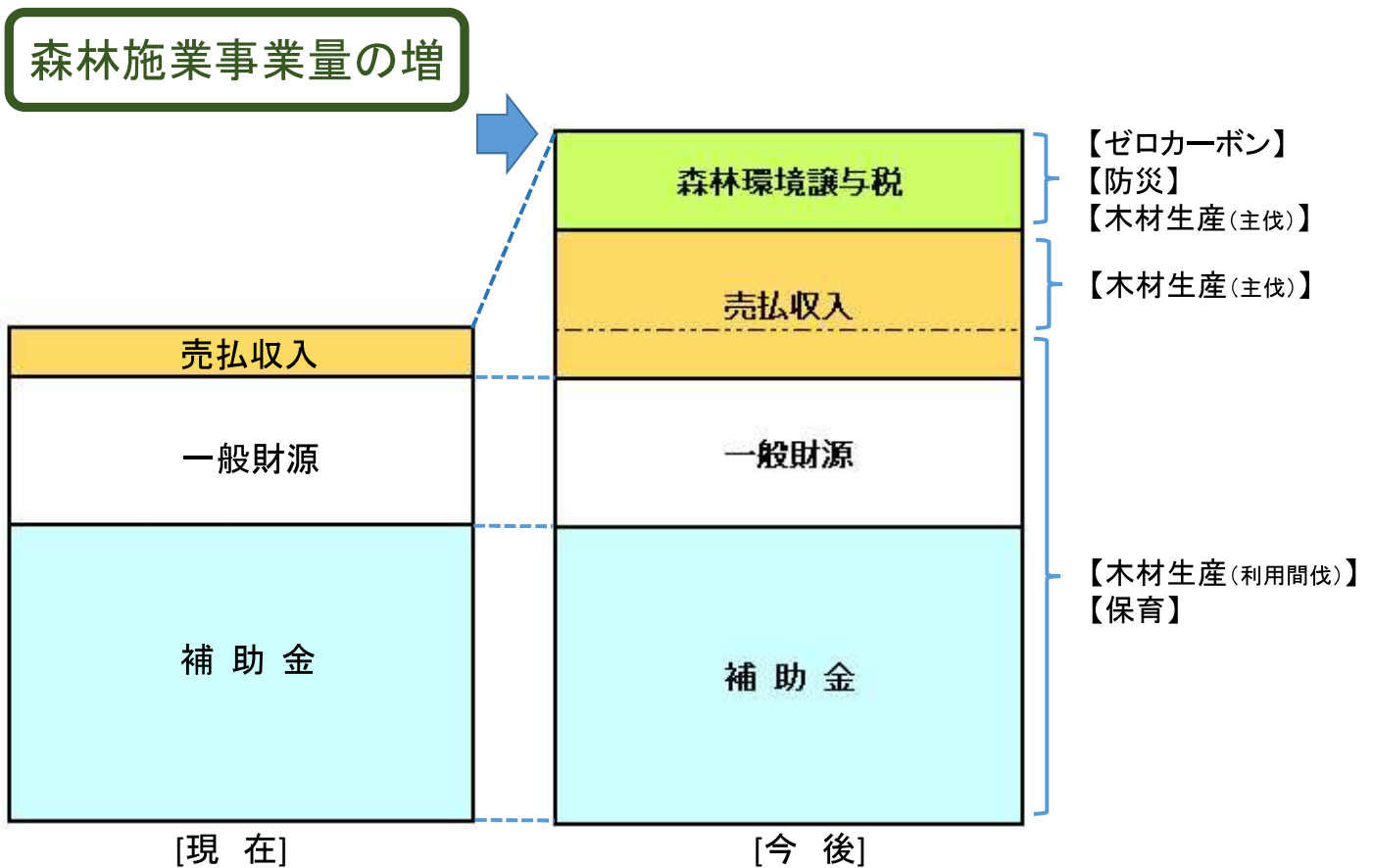
樹冠長率の低下等による倒木、根がえりのおそれ等、森林の風水害の発生を防止する必要がある市公有林

⇒③森林風水害の発生防止・②二酸化炭素吸収量の増加・⑤林業担い手の確保、育成・(④花粉対策)

●【木材生産】・【ゼロカーボン】・【防災】・【保育】の4区分にゾーニング



内 容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
森林資源解析結果の精査	■											
ゾーニング計画作成 【木材生産】【ゼロカーボン】 【防災】【保育】の4区分	■											
森林経営計画作成					■							
主伐再造林施業実施年度 計画作成										■		
モデル団地での主伐、再 造林 (立木売払制度による施業を予定)					■							



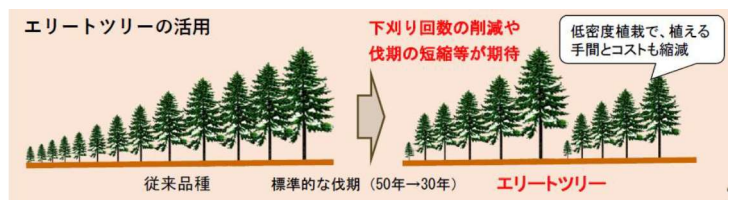
● 二酸化炭素吸収量の増加、風水害発生防止、花粉対策等を目的とした伐採は、収益が見込めないことから、再造林にあたっては、省力、低コスト造林により歳出の減を図る。

- | | |
|---------------------|---|
| <p>ポイント1</p> | <p>一貫作業システムの実施
機械による地拵え作業と苗木運搬による省力・低コスト化</p> |
| <p>ポイント2</p> | <p>コンテナ苗・コンテナ大苗の活用
植栽適期が長く、植付が容易で、活着の良いコンテナ苗の活用による省力・低コスト化</p> |
| <p>ポイント3</p> | <p>低密度植栽の実施
単位面積当たりの植栽本数を少なくすることによる省力・低コスト化</p> |
| <p>ポイント4</p> | <p>下刈り作業の見直し
下刈り回数の削減、機械での下刈り作業による省力・低コスト化</p> |

針葉樹早生樹(コウヨウザン)



「再造林における植栽、下刈りなどのコスト縮減や萌芽更新による収穫回数の増加によって、林業経営の収益性向上が期待出来る。」



早期生長、早期収穫
成長がスギの約2倍



通直で形質が良好
スギに似た幹が通直



萌芽更新が可能
再造林費が大幅に削減



材の強度は高く、耐虫性有
ヒノキに近い強度、白蟻に強い

コウヨウザン(広葉杉)

- ヒノキ科コウヨウザン属の常緑針葉樹
- 中国・台湾原産
- 中国では人工林面積が665万haに上る
- 江戸時代以前にも導入(寺社が多い)
- 都道府県、大学、国有林にも植栽あり



1-1-④森林整備による二酸化炭素吸収源の確保
重点取組⑤ 豊かな森林づくりの推進【取組目標】

注) 森林整備面積 : 主伐+「間伐等実施面積」

目標設定項目	現状値 (基準年度)	短期目標値 2030年度	中期目標値 2040年度	長期目標値 2050年度
CO ₂ 吸収量	156千t-CO ₂ (2021年度)	156千t-CO ₂	156千t-CO ₂	156千t-CO ₂
≪考え方≫ 現状のCO ₂ 吸収量を、今後も維持し続けることをめざします。				
森林整備面積	149ha (2021年度)	200ha	200ha	200ha
≪考え方≫ 森林整備計画の実施により、森林整備を進めます。なお、前計画では、目標値を累計で設定していましたが、CO ₂ 吸収量の目標を年間としていることから、それに合わせて目標値を年間で設定しています。				
間伐等実施面積	116ha (2021年度)	160ha	160ha	160ha
≪考え方≫ 森林整備計画に基づく間伐等の実施により、豊かな森づくりを進めます。なお、前計画では、目標値を累計で設定していましたが、CO ₂ 吸収量の目標を年間としていることから、それに合わせて目標値を年間で設定しています。				
市産材取扱量	12,729 m ³ (2021年度)	15,500 m ³	15,500 m ³	15,500 m ³
≪考え方≫ 市産材の取扱量の増加をめざします。				
新規林業就業者数 (累計)	2人 (2021年度)	29人	-	-
≪考え方≫ 毎年、新規林業就業者を確保し、林業就業者の増加を進めます。				